「聞くこと」を重視した対話的活動

上川寛子
鳥取大学附属中学校　国語科
E-mail：hi_kamikawa@fuzoku.tottori-u.ac.jp

Hiroko Kamikawa（Tottori University Junior High School）： **Dialogic activities placing importance on “Listening”**

要旨 ―　様々な意見を持つ他者との対話は，学習を深めるためには欠かせない。授業においても「話し合い」という形でよく言語活動が行われる。その際，自分の意見を伝えるだけではなく，他者の意見を取り入れることで思考が深められる。本実践では，インタビューを通して「聞くこと」の指導に重点を置いた授業実践を行った。他者の意見を聞かざるを得ない状況を作り，得た情報を元にやりくりさせることで，他者の意見を大事にしつつ思考を広げる取り組みとなった。

キーワード ―　対話，聞くこと，話し合い，インタビュー

Abstract―Dialogue with other people with various opinions is indispensable for deepening learning. Language activities are also often done in the form of "discussion" in the class. In the activities, one’s thinking can be deepened not only by telling his or her opinion to others, but also by incorporating the others’ opinions. In this practice, we practiced lessons focusing on the guidance of 'listening' through interviews. It was an effort to expand thought while cherishing opinions of others, by making a situation where students have to ask others' opinions and by encouraging students’ managing based on the information obtained from discussion with others.

Key words―dialogue, listening, discussion, interview

1　はじめに

1.1 問題の所在

新学習指導要領では，アクティブ・ラーニングの視点の１つとして対話的な学びが検討されている。対話について村松（2013）は，「異なる意見の持ち主に対してどう記述したら説得できるか，といった仮想的読者との対話を経て初めてその作成が思考力の錬磨につながる。そうした自己内対話（内言）の力の土台を作るのは実際の他者との対話（外言）経験である。」と，その意義について述べている。

また，阿部（2016）も，「自分のための言語である『内言』を重視しつつ，それを『外言化』する中で思考はより劇的な展開を見せる。」と，対話における外言化の重要性を述べている。

国語科では，以前からペアやグループでの活動が取り入れられており，対話は「話すこと・聞くこと」の指導や「読むこと」の指導においても活用されてきた。その際，話し合いが活発に行われるような手立てが考えられたり，自分の意見を伝えることに重きを置いた活動が設定されたりすることも多い。しかし，ともすれば弁の立つ生徒や雄弁な生徒の意見で活動が進み，口数の少ない生徒の意見が生かされないことも起こりうる。

村松（2013）は，「『対話力』とは，話線を交流させながら，情報・知識や思い，考えなどを共有し，相互理解や認識を深め合う力」だと言っている。対話を成立させるためには，自分の意見を主張することばかりではなく，他者の意見を聞き入れることも必要である。そして，聞いた上で，自分の意見を述べるということである。

自分とは異なる他者の考えを聞き，自分の考えと比べながら交流することで，より考えが深まっていく。そのため，「聞くこと」に重点を置いた指導の工夫が必要である。

1.2　生徒の状況と課題

これまでの授業では，音読や答えの確認，自分の意見を説明するなど，比較的取り組みやすい活動でペアを活用してきた。また，なるべく多くの意見を出させたいとき，友だちの意見を参考にするため意見交換をするときなど，ペアやグループでの活動を積極的に活用してきた。生徒は，すぐに答えの確認や意見交換をしたり説明をし合ったりと，自分の意見を述べることにあまり抵抗を感じていない様子である。全体で意見を確認する時には発言の少ない生徒も，少人数になるとすぐに自分の意見を伝えようとする様子が見られ，自分の言葉で意見を述べる機会となっている。

一方で，積極的に発言する生徒の意見で話し合いが進んでいる場面もしばしば見られる。自分なりの意見を持っていない，発言力のある生徒の意見に従う，多数決になっているなど，言葉についてよく検討を行っていないことが理由になっていると考えられる。

2　授業の実際

2.1　学習のねらい

生徒が主体的に活動に取り組むには，必然性のある課題設定が重要である。「聞くこと」を指導するためには，聞かざるを得ない活動を取り入れることである。本実践では，言葉のやりとりの中で進められるインタビューを通して，「聞くこと」の指導を行うこととした。

インタビューでは，いかに相手の話を引き出すかということがポイントとなる。相手の話を引き出すためには，相手の話をよく聞き，適切な質問を返すことが必要となる。「聞く」ことが基になって，対話が進むということを意識させたい。

インタビューで得た意見は，３人グループを活用して互いに紹介し合い，３人の意見を取り入れて１つの文章としてまとめるようにした。３人の意見を生かし，比較検討することで，合意に向けて言葉を検討し，考えを深めようとする態度を養う。

また，自分の意見がまわりの友だちの役に立っているという思いや，友だちの意見を聞くことで考えが広がるという経験を積ませたい。

2.2　学習過程

学習計画（全６時間）

第１次　インタビューの仕方について考える

⑴　インタビューのテーマを知る
　　インタビューの回答を予想する

⑵　インタビューの質問を考える
　　互いにインタビューの練習をする

⑶　効果的な質問について考える

（課外活動）　身近な人へのインタビュー

※期間は１週間程度

第２次　インタビューした内容をまとめる

⑴　取材内容のまとめ方を知る
　　取材内容をグループで共有する

⑵　取材内容から結論（アドバイス）を考える

⑶　インタビューで得た意見をまとめ，文章化する

2.3　学習におけるやりくり

「やりくり」するための授業設計３つのポイントに準じた工夫は次のようである。

まず，意欲的に取り組めるよう学習課題を自分たちに身近なものにしたことである。テーマを「中学校生活を充実させるコツをまとめよう」とし，インタビューを，中学校の先輩や，人生の大先輩である身近な大人を対象にして行った。

生徒は，入学して２か月，学校生活にも慣れ，部活動にも本格的に取り組み始めた１年生である。何となく学校の楽しさは味わっているものの，具体的に何が自分の生活を充実させるのかという問いに明確な答えを持たない時期でもある。そこで，自分たちに役立つ意見，自分たちにはない意見を求めてテーマを設定することで，意欲につなげたいと考えた。

次に，インタビューで得た言葉をなるべく多く生かして共通点を見つけ，アドバイスを考えさせることである。先輩の言葉からどのような共通点を見つけ，どうしたら多くの人に適用できるアドバイスとなるのか，試行錯誤することとなる。その際，個人ではなくグループでの「対

話」により意見の合意を求めることで，互いの意見を生かしながらやりくりすることができるのではないかと考える。

2.3　やりくりするための手立て

2.3.1　改善したことを生かせる場面づくり

インタビューの単元では，設定されたテーマを基に友達同士で役割を決め，互いにインタビューを行い，インタビューの振り返りを行うといった流れが一般的である。しかし，それでは，学んだことを生かす活動になりにくい。

そこで，インタビューの練習をし，気付いたことを基に質問を改善して，実際のインタビューに向かうようにした。

やり方については，まず自分たちで互いにインタビューを行い，どんな言葉を引き出したいのかイメージを持って取り組めるようにした。そして，効果的な質問とはどんな質問か検討を行い，実際のインタビューに生かせるようにした。

2.3.2　グループでの話し合い

全員の参加を促すため，３人グループを活用している。少人数のため自分の考えが述べやすく，意見も大事にしてもらえる。

インタビューのまとめでは，共通点を見つけてアドバイスとしてまとめさせるというように，意見の合意を求めた。個人で考えるのではなくグループを活用することで多様な考えが生まれる。その考えを頼りに言葉について検討し，よりよいアドバイスを求めて思考させたい。

2.3.3　ホワイトボードの活用

話し合いを行う際，意見をホワイトボードに書き出させた。見える形で提示することで，すべての意見を取り上げて話題とすることができる。また，出た意見も書き込んでいくことで，流れを確認しながら話し合いを進めることができる。今回はインタビューにより，たくさんの意見が集まることが予想されるため，書き出したものを見ながら考えられるようにした。

4　考察

4.1　個々の意見から改善策を見つける

実際に，クラスの友だちを相手にインタビューをしてみると，うまく話を引き出した質問，話が発展しなかった質問，アドバイスにつながらなかった質問などがあり，質問の仕方に工夫が必要であることが分かってきた。生徒からの意見では，曖昧な問い方，答えが分かりきった質問では相手の意見を引き出したり発展させたりしにくく，相手から引き出したいことをイメージしながら聞くことも大切であるということが出された。逆に，理由や方法，経験など具体的なことを聞いたり自分の体験と比べて聞いたりするのが有効だと気づき，インタビューの仕方を工夫しようと考える姿が見られた。（図１）

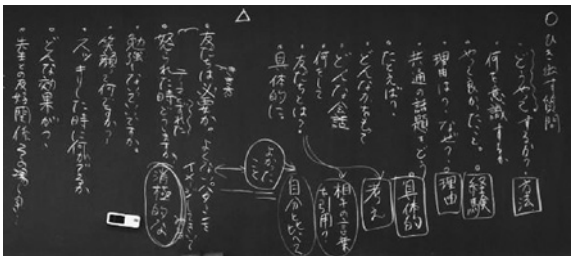

図１　効果的な質問について検討

生徒から出された個々の具体的な質問について知るだけでは，次回のインタビューに生かすことができない。しかし，共通点を考えていくことで，効果的な質問とはどのようなものかつかむことができる。

質問する側からは気づけないことも，相手の意見を聞いて検討していくことで，自分に生かすことのできる意見とすることができる。抽象化した意見を意識してインタビューすることで，より目的に合った意見を引き出すことにつながった。

4.2　意見を抽象化してアドバイスにする

１週間くらいの期間を設け，授業時間外に各自で身近な人にインタビューを行った。中学校生活を経験した人ということで，先輩，親，兄姉，いとこ，先生など複数の人物を想定し，インタビューに向けての準備を行った。

生徒は，事前に自分たちで「コツ」を考えて

いった（図２）。マッピングを活用して連想していったが，自分たちで考えたコツは「勉強・部活をがんばる」「楽しむ」など抽象的なものである。

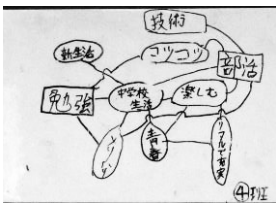

図２　事前に自分たちで考えた“コツ”

このグループが，インタビューで集めてきた意見が図３である。意見はより詳しく，実生活に即したものになっている。自分たちでは思いつかない多くの意見に触れられたことが分かる。今回は，一人一人の意見を大切にするため，意見を選択して紹介するのではなく，全ての意見を紹介し意見を共有させた。そして，なるべく多くの意見を生かして多くの人に通用するアドバイスとしてまとめることとした。

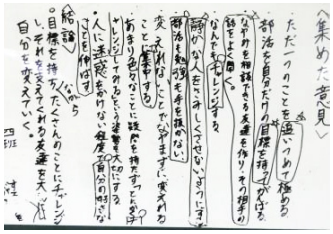

図３　インタビューで得た意見

すべての意見を生かすためには個々の具体的なアドバイスの共通点を見つけ出して，抽象的なものとする必要がある。言葉を検討し，どのような点でつながりを見いだすのかを試行錯誤させた。別のクラスでは，意見を共有する時，授業に生かせそうな意見，生かせそうにない意見を自分の中で判断し，取捨選択して紹介する様子が見られた。これでは，意見の合意は求めやすいが，自分たちの考えの枠の範囲内での思考しかできない。課題によっては必要な作業ではあるが，今回の目的は言葉を検討する中で，考えを深めていくことである。なるべくすべての意見を生かすことを条件とすることでよりやりくりの力が必要とされる。

あるグループは，「告白する」という意見を巡って話し合いを進めた。「この意見は授業にはちょっと」という生徒に対し，「これも大事な意見だ」と主張する生徒。話し合った結果，他の友達関係の意見とともに「友達に遠慮せずに話しかける」とまとめた。そして，他の意見と合わせて，「中学校生活では積極的に行動し，日々の生活を過ごすことが重要だ」とした。初めは，反対していた生徒も，他の生徒の意見を聞き納得する様子が見られた。

最後のまとめとして，自分たちで考えた「コツ」を説明するため，集めた意見の中から説得力を持っている意見を具体例として選び，作文にまとめた。次の文章は，図２と図３で紹介したグループのまとめ作文である。先輩達の言葉から，自分たちなりにコツを考え，先輩の言葉の意味を捉え直しながらアドバイスとしてまとめることができた。

> 人生の先輩に、「中学校生活を充実させるコツ」を聞いてみた。
> Cさんは、自分を振り返って次のように語ってくれた。
> 「悩みを相談できる友達をつくり、その相手の話をよく聞くこと。」
> また、「友達を作るには、積極的に話しかけるといい」と教わった。
> Kさんは、「変えられないことで悩むより、変えられることに集中する。」と語ってくれた。要するに、過去、他人、嫌な気持ちなどより、未来、自分、行動のために一つずつのことを大切にしようということだ。
> Nさんは、「部活も勉強も手を抜かない。」と語ってくれた。そのために、規則正しい生活、時間を効率的に使うことが大切なようだ。また、今の中学生に伝えたいこととして、次のことを語ってくれた。
> 「あまり色々なことに疑問を持たず、とにかくチャレンジしてみるという姿勢を保ってほしい。」
> このことから、「目標を持ちながらたくさんのことにチャレンジし、自分を変えていく」のがコツだと考えた。（中略）未来を作っていくのは私たち。一つ一つのことを大切にし、責任を感じながら、人生を歩んでいきたい。

この具体と抽象の行き来の中で，１つ１つの言葉を吟味しながら，生徒は思考を広げることができたのではないかと考える。

5　おわりに

今回は，インタビューを通して対話を行ったが，日々の授業の中においても，他者の意見から学ぶ姿勢を大切にした取り組みを行っていきたい。

文献

阿部昇（2016）　確かな「学力」を育てる　アクティブ・ラーニングを生かした探求型の授業づくり－主体・協働・対話で深い学びを実現する．明治図書出版．159 pp.

花田修一編著（2013）　国語授業における「対話」学習の開発．三省堂．159 pp.